



コンクリートで固められている。

沢が左に曲がった所にF1 10mが出てきた。右側をまず私が登り、ザイルを出して2人を登らせる。上部が逆層で注意を要する。チョック滝、F2と続く。F2はへつりでは取り付けないので、右岸を小さく捲く。

しばらく歩くと沢が伏流となり、それが二俣手前まで続く。8:40二俣到着。右俣の方が水量は多いが、左俣に入る。

F3 3m、F4、F5と現われるが、難なく越える。やがて右岸より小沢が合流し、そのすぐ上にくの字に水が流れる滝がある。沢が狭くなってF6、F7を越えるとまた二俣。水量が多く、斜瀑となっている左沢に入る。

左沢はナメが時々現われる程度で、やがて水も少なくなってきた。沢に水がなくなったあたりから岩場となり、ブッシュづたいに尾根に上がる。木に登って現在地を確かめ、尾根上の踏跡を少し歩いてから、大倉沢の下降にかかる。(記)

[タイム] 出合(6:55)→遡行終了・尾根(10:30)

### 大倉沢右俣

1983年8月27日

L

会津労山の鈴木さんとパーティを組んで、大倉沢に入る。事前の情報では、かなり奥まで河原ばかり続いていて面白くないということであったが、地図で見ると限りではずっと廊下が続いていて、平凡なままで終わってしまうようにも思われない。

8:05砂防ダムの上でワラジをつけ遡行開始。すぐに兩岸に側壁が切り立ち、深いゴルジュとなったが、沢床は平凡なままである。10分程歩いてようやく深

い釜をもった3m程の小滝が出てきた。右岸を登る。その少し先に、5mの滝があり、これは左岸を快適に直登する。ここで沢筋は明るくなり、最初のゴルジュは終わる。

小休止して再び歩きはじめるとすぐに第2のゴルジュである。最初の滞は右岸をへつるが、第2の滞で行き詰まる。距離にして5m程の部分が通過できない。覚悟を決めて水に飛び込み、泳いで通過。その上のC.S.滝を左岸から搦きぎみに越え、第2のゴルジュも終了する。

しばらくは明るい沢筋が続く。相変わらず河原状なのだが、両岸には明るいスラブが目立ってくる。やがて第3のゴルジュ。ここも滞の通過が問題となった。右岸から越せそうな気がしないでもなかったが、どうせぬれついでだからと泳いで通過する。この上で二俣となった。

左俣の方が本流であり、水量も多いが、こちらは下降に使うこととして右俣に入る。最初はナメが続いてこれならと期待をもたせたのだが、あとが全くいけない。4mの小滝1個が出てきたのみで、源頭に達してしまった。

ゆっくりと昼食をとってから、稜線をめざす。右手上方にはスラブが見えていたので、左手の小尾根にルートを取り、12:05 稜線に出る。

【タイム】 大倉沢出合(8:05)→二俣(10:00, 10:20)→稜線(12:05)

